

「先生！明日も社会の授業しようよ！」

子どもたちが夢中になる授業を目指して

社会科の授業について皆さんはどんなイメージを持っていますか？「暗記ばかり」、「覚えることが多くてつまらない」、「年号を語呂合わせで覚える授業」などなど…多くの人がこんなイメージを持っているのではないのでしょうか？

しかし、本来の社会科の授業は、こういったイメージとは真逆のものです。社会科では、子どもたちの問題関心に基づいた課題の設定、子どもたちが主体的に取り組む調査活動、興味を持った内容についての調べ学習、話し合いによる課題解決、学習成果の表現活動など、子どもたちが主役となって活躍する授業を目指しています。

社会科教育学ゼミでは、子どもたちから「先生！明日も社会の授業しようよ！」と声がるような社会科の授業づくりができる力を、ゼミ生の皆が身につけることができるように研究や様々な活動に取り組んでいます。

【ゼミの活動】

ゼミでは主に社会科に関わる文献や論文を皆で読み、レポートを書いて発表し、討論を行います。討論を通じて、社会科の理論や授業づくりの知識を深めていきます。

文献や論文を読んで学んだこと、討論を通して気付いたことをもとに、4年生では卒業論文を執筆します。

この他にも、小学校の先生をお招きして授業づくりに関するお話を聞いたり、学生同士で授業の練習をしたりする活動も行っています。

【ゼミで大切にしていること】

「1週間に1冊本を読もう」

1ヶ月で4冊、1年間で約50冊、大学4年間で200冊の本が読めます。200冊読んで先生になった人と、1冊も読まずに先生になった人とは、どちらが「楽しい授業」ができるのでしょうか？

本は自分の世界を広げてくれます。色々な立場の人の気持ちが分かる、広い視野を持った先生を目指してほしいと思います。

【過去の主な卒業論文題目】

「対話をいかした授業についてー小学校社会科地域学習を事例としてー」

「疫病と差別」

「将棋とチェスを用いた文化比較」

「異文化理解についてー文化の差異と国際理解教育の視点からー」

「社会科の脱暗記化に向けて」